

# 学会印象記

## 第36回日本運動器移植・再生医学研究会

2017年9月29日(金)・30日(土)

京都ホテルオークラ

会長：久保 俊一(京都府立医科大学大学院医学研究科運動器機能再建外科学 教授)

黒田 良祐

神戸大学大学院外科系講座整形外科学

第36回日本運動器移植・再生医学研究会が、京都府立医科大学大学院運動器機能再建外科学 久保俊一教授を会長として2017年9月29日・30日に開催された。「移植・再生医療とリハビリテーション医療」を本会のテーマとされ、整形外科における移植・再生医療のみならず運動器の機能改善のためのリハビリテーションの活用についても多くの議論がなされた。会長講演では「再生医療におけるリハビリテーション医療の役割」と題して、現在のリハビリテーション医学・医療の広がりや運動器の再生医療におけるその役割についてご講演された。学会は2日間にわたって行われ、初日には京都リハビリテーション医学研究会、京都運動器疾患フォーラムとの合同企画として、和歌山県立医科大学リハビリテーション医学の田島文博教授による

「障がい者スポーツと再生医療」、秋田大学整形外科学講座の島田洋一教授による「ロボットリハビリテーションと再生医療」のご講演が行われた。2日目には岡山大学の千田益生教授による「筋肉と再生医療」、京都府立医科大学免疫学の松田修教授による「ダイレクト・リプログラミングの再生医療への展開」など非常に興味深い特別講演が行われた。また再生医療等製品としては初めて“先駆け審査指定制度”の対象として指定を受けた「骨髄間葉系幹細胞静脈投与による脊髄再生」について札幌医科大学の山下敏彦教授によりご報告があった。またアフタヌーンセミナーとして「ボーンバンクの現状と今後の課題について」と題して東海骨バンクなどにご尽力されている蜂谷裕道先生よりご講演が行われた。一般演題では骨、軟骨、神経、



熱い議論がかわされる会場風景